

2020 年度現代東アジア言語・文化専攻卒業生
2020 年度現代東アジア言語・文化学専修修了生

ご卒業・ご修了、おめでとうございます

2021 年 3 月、現代東アジア言語・文化専攻の 67 名が卒業し、現代東アジア言語・文化学専修の 5 名が修了します。

今年度は、3 月 21 日に専攻・専修の卒業証書・学位記授与式が行われました。

ただ、授与式へのご出席が叶わなかった卒業・修了生もいらっしゃいますので、教員からのお祝いのメッセージをお届けします。

2021 年 3 月 22 日

【宇野木洋先生より】

皆さん。卒業おめでとうございます。

僕は昨年 3 月、36 年間勤めた立命館を定年退職しており、特任教授として授業は担当しているものの、本来はここに顔を出せる立場ではないのですが、皆さんが 3 回生の時にはゼミを担当していたこともあって、専攻に無理を言って参列させてもらいました。

中国の現代文学の父と呼ばれる魯迅の小説「故郷」の一節を、皆さんに贈ります。国語の教科書にも載っていますし、僕もあちこちで話していますので、もう聞き飽きたという方も多いかもしれませんが、卒業にあたって、もう一度だけ噛みしめてほしいと考えました。

「地上本没有路，走的人多了，也便成了路。[Dìshàng běn méiyǒu lù, zǒuderén duōle, yě biàn chéngle lù.]」。訳すと、「地上にはもともと路はない、歩く人が多くなると路になるのだ」となります。今、ちょっと振り返ってみて下さい。皆さんは、立命館大学という「地上」を、多くの友達や仲間とともに歩くことを通じて、自分なりの「路」を創り上げてきたのは間違いありません。人によって「路」の広さや曲がり方などは異なるでしょうが、一筋の「路」が築かれているのは確かです。どんな「路」なのか、誰とともに歩いた「路」なのか、是非、しっかりと確認してほしい、自信にしてほしいと心より願っています。

今後は、これから歩み出す社会という新たな「地上」に、ともに歩く人を増やしていく中で、つまり友人や同僚、恋人そして配偶者や子供たちとともに歩むことを通じて、自分の人生という新たな「路」を、是非とも築き上げていってほしいと、改めて強く願っています。「ともに歩く人を多くすると路になる」という視点も忘れないようにして下さい。

頑張って歩いていきましょう。卒業、本当におめでとうございます。

宇野木 洋

【庵途由香先生より】

ご卒業おめでとうございます。こんな時代だからこそ、人とのつながりを大切にしてください。皆さんの活躍を、心から期待しています！



庵途 由香

【上野隆三先生より】

ご卒業おめでとうございます。

文学部の学びは実学ではないので、社会人として働く際に役に立たないという人がいます。学生さん自身もそう思っている人がいます。しかし本当にそうでしょうか。

皆さんは卒論を書いたわけですが、卒論完成に至るまでに、思考力、調査能力、発想力、読解力、文章力など様々な力が養われています。そうした力は社会においても大いに役立つ力です。そのことには自信を持って頂きたいと思います。そのうえで社会に出てからも、様々な経験を積み、さらに自信を深めていてもらいたいと思います。



皆さんの人生において、様々なことが起こります。コロナ禍のように全く予想しなかったことも起こりうる状況です。そうした時にも是非ぶれずに判断できるような、自信をもって取り組んでいけるような力を身に付けてもらいたいと思います。

また、社会に出てから、また学びなおしたいと思ったら、是非立命館に戻ってきてください。大学院に入る形もあれば、授業のみを履修する形もあります。また社会人も参加できるプログラムやフォーラムもあります。いつでも、どんな形でも歓迎ですので、よろしくお願いします。

コロナ禍が終わったら是非食事会などしましょう。

改めまして本日はご卒業おめでとうございます。

上野 隆三

【小西敏夫先生より】

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私は1988年9月から1996年3月まで、7年半の間、韓国のソウルで暮らしていました。最初はソウル大学の大学院に留学していましたが、最後の1年半は、世宗（セジョン）大学という、ハングルを作った王様の名前のついた大学で、日本語・日本文学を教えていました。



日本と韓国は似ているところもたくさんありますが、違うところもたくさんあります。日本と違うなあと感じたのは、韓国の人々の「したたかさ」です。世宗大学の私の担当の授業で期末テストをしたのですが、ある学生が、試験の終了時間になっても答案を書き続けて、10分ぐらいしてから提出しました。日本だと時間になると答案を書くのをやめると思います。後で同じ学科の韓国人の先生に尋ねたところ、「せっかく答案を書いているのだから、書き終わるまで待ってあげるのが情というものだ。」と言われました。

また、ソウル大学の図書館で、博士論文を提出しにきた学生がを目撃しました。その日が論文の提出締め切りでした。たまたま土曜日でしたので、12時が提出締め切りでした。12時までは図書館員が提出会場で論文を受け取っていましたが、12時を過ぎたので図書館員は図書館の事務室に引き上げました。その学生は10分ほど提出が遅れたのです。日本だったら、下手に出て、「ちょっと遅れたのですが、受け取っていただけないでしょうか。」というのではないかと思います。その学生は、

「ちょっと遅れただけなのにどうして待たずに引き上げてしまうのか。」と図書館員に怒鳴ったのです。図書館員は、「12時を過ぎたから引き上げたまでだ。」と答えましたが、結局論文を受け取りました。この話を私が当時住んでいた外国人留学生寄宿舍で話したところ、東大から留学に来ていた人が、「東大でも提出が5分遅れた人がある。受け取る担当の教務課の職員が、『早く来たな。まだ1年あるぞ。』と言って受け取ってくれなかった。」と言いました。

このように、困難な状況にぶつかったとき、日本人だったらあっさり諦めるところを、韓国人だったら何とかしてしたたかに乗り越えようとするのをあらわしているのが、上の2つのエピソードだと思います。もっとも、今から30年ほど前の話ですし、日本人だからこう、韓国人だからこうと一概には言えないかもしれません。ただ、私の経験上、韓国の人々が困難を何とかして乗り越えようとする場面を他にも見たことがあります、韓国の人々はしたたかだなあ、という印象を私は持っています。

皆さんはこれから社会に出て行きます。そこでは、困難な状況が待ち受けているかもしれません。そのようなときに、あっさり諦めずに、何とか解決することはできないか、日本の社会では韓国式のやり方は通じないかもしれませんが、何とか頑張ってみる、ということを考えてみるのもよいと思います。

皆さん、健康に気をつけて、これからの新しい人生を切り開いていってください。何かありましたらご連絡ください。

小西 敏夫

【佐々充昭先生より】

皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまでの大学生活でいろいろなことを体験されたと思いますが、最後の一年間はとてもたいへんな時期だったと思います。それを無事に乗り越えて卒業を迎えられたこと、心から祝福します。

これからパンデミックだけでなく、気候変動や異常気象、国際間競争、IT による社会変容など、世界で様々なことが起こるかもしれません。それらに負けず、激動の時代を乗り越えながら、決してネガティブにならず常にポジティブに、幸せで豊かな人生を送って行ってください。

また世界の中で東アジア地域のもつ重要性はますます高まっています。皆さんは現代東アジア言語・文化専攻で、時代が必要とする専門的な知識を学んできました。それらの知識を生かして、これから社会で大いに羽ばたいて行ってください。皆さんの活躍を期待しています。

佐々 充昭

【三須祐介先生より】

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

卒業を迎える最後の年、コロナでたいへんな一年になりました。たいへんな困難と向き合ってこられたと思います。このような自然災害や感染症を前にすると、人間がいかに無力な存在かということを改めて思います。でもなんとか、人間は変化に対して柔軟に対応していこうと努力します。社会のあり方、大学のあり方、もちろん食事の仕方まで、すべてがアップデートされることになりました。アップデートは、たいへんは、社会の大多数つまりマジョリティを前提としたものとなります。最大多数が幸せになればいい、ということですね。

確かにそういう効率的な、数値的にはより適切であるという考えは、時として必要なかもしれませんが。しかし、この一年の経験でわかったのは、そういうマジョリティを前提としたアップデートに、ついていけない弱者やマイノリティの人々の存在です。というより、社会の混乱のひずみのしわ寄せがまずそういう弱者に集中し、それまでは見えなかった弱者の存在がより明らかになったということかもしれません。マジョリティを前提とした社会が持つエネルギーは、社会の幸福な未来を構築することもできますが、弱者やマイノリティには、時として暴力のように見えることもあるのです。そういう弱者を見捨ててはいけません。自分はマジョリティと思っていても、なにかのきっかけでマイノリティになってしまうかもしれない不透明な時代でもあるのです。

文学部の学びは、効率化や数値化によって覆い隠されてしまう人間の側面を見つめ、探求していくことにあると思います。弱者やマイノリティのことを考えることも、そのひとつです。みなさんは四年間でたくさんのことを学んだと思います。学びはすぐには完成しません。この四年間は、学びの第一歩に過ぎなかったかもしれません。でも、学び続けなければならないのです。学びは生きる力となります。

幸福な人生になるよう、これからもよく生き、よく学び続けてください。

あらためて、卒業おめでとう。

三須 祐介

【金津日出美先生より】

ご卒業おめでとうございます。

本日、この場にいらっしゃるほとんどのみなさんがご入学された 2017 年 4 月は、実はわたしも立命館に赴任した年でもあります。ですので、そのときの新生のみなさんがご卒業ということで、非常に感慨深いものがあります。

さて、みなさんは大学での 4 年間、どのようなことを達成できたでしょうか？逆に、うまくいかなかったこともあるでしょう。でも、入学の際、今日と同



じようにみんなが集まってオリエンテーションがあった日のことを思い出してみてください。そのときには周りに知り合いがほとんどいなかったと思います。それが今はどうでしょう。周りをみてください。ほぼすべての人が知り合い、友人となっていますよね。つまり、大学で過ごしてきた歳月は、こんなにも多くの人間関係を創りあげてきたわけです。これはみなさんの‘原資’ともいうべきものです。ここにはみなさんが積み重ねてきた関係が、まちがいなく存在しています。うれしく、楽しい時間をともにしながら、またともに悩んだり、励まし合ったりして積み重ねてきた時間は、決してみなさんを裏切りません。

これから社会に出て充実した時間を過ごされると思いますが、同時に辛いこと、壁にぶつかることがあるかもしれません。結果が出ずに、自信をなくしたとしても、自分なりにやってきたことや時間はかならず何かを残しています。そんなときはぜひこの‘原資’を思い出してみてください。これまでこんなにも多くの関係を創りあげてきたように、これから過ごす時間も多くのものを創り出しているはずです。

本日は、ほんとうにおめでとうございます。

金津 日出美

【廣澤裕介先生より】

みなさん卒業おめでとうございます。

なにより今日この場にみんなが集まったことをうれしく思います。

この一年、一時は先行きがまったく見えない状況の中で、就職活動や卒論執筆と格闘し、自分と向き合う時間が多かったと思います。そのなかで、多くの学生が卒業を迎え、ここに集まることができたことがうれしいです。

みなさんとの最後の時間で、私の大学生活の中で出会ったいくつかのことばを紹介しておきたいと思います。

ひとつは、できなかった問題や果たせなかった課題を、心の片隅に置いておき、いつか出来るようになる日を待つ、ということです。時間がたち、成長を重ねれば、できなかったことが自然とできるようになる日が来ます。だれしも解決することができない問題やコンプレックスなどがありますが、この話をしてくれた先生は、無理にできたことにするより、自然と解決できる日をゆっくり待ちなさい、その日まで忘れずにいなさいと話してくれました。

もうひとつは、あせらず 50 年後も 100 年後も読まれる論文を書きなさい、ということばです。みなさんに対しては、50 年後や 100 年後の世界でも意味のあることをしなさい、と言い換えたいと思います。これは途方もないことをかも知れませんが、みなさんが人生を歩んでゆく中で、ひとつくらい途方もない夢を胸に抱いて生きてゆくのは、おもしろいことだと思います。ぜひひとつ途方もない夢を持ってください。



これから多くの人が社会人として歩んで行きますが、もしも本当に切羽詰まった状況に置かれたときには、自分の中にある最もクリエイティブな選択肢を、もっとも創造性のある道を選んで欲しいと思います。

元気に明るく人生を歩んでいってください！

廣澤 裕介

【三木貴司先生より】

ご卒業おめでとうございます。

これから新しい道を進まれるみなさんには、ぜひ幸せになってほしいと思います。ただその方法は人それぞれだということも忘れないでいてほしいです。これは当たり前だけど忘れがちで、私自身も授業で学生さんに気づかされたことがあります。語学の授業で「～ば」という文型を練習していたとき「どうすれば幸せになれるか」という問いかけをしました。例文として、「お金持ちになれば」とか「大きい家に住めば」とか、物質的な内容を提示したのですが、返ってきた答えの一つに「人と比べなければ」というのがありました。たしかに、誰かに羨ましがられたり、世間の大多数の人の思う成功の形に当てはまれば一定の幸せは感じられるのかもしれませんが、



やはり自分が本当に満足できるのが長続きするコツではないでしょうか。

某 K-POP グループが「私の人生、私のものだから」「私は私」と繰り返したり、かつては「一般的」「多数者」とされてきたものや規範が新しい（もしくは昔からあったものの見えなかった）価値観により変化したりする様子が目につくようになりました。他者との関係や既存のものを尊重する気持ちが大切なのは変わりませんが、自分らしさも同じように大切にしたいものです。

みなさんが自分らしく幸せに笑って暮らせることを心より願います。ご卒業おめでとうございます。

三木 貴司

【宮内肇先生より】

ご卒業おめでとうございます。

最近、私が感じることですが、私たちが暮らす社会は、残念ながら、知識やそれに関わる知的な営為に敬意を払わなくなくなりつつあるように思えてなりません。

例えば、就職活動のなかで、あなたは何かができるのか、どんな経験をしてきたのかといった、スキルや経験が求められ、そのことに苦悩した人もいるのではないかと思います。あるいは、卒業論文に苦しみつつ、これはなんの意味があるのだろうかと考えた人がいるかもしれません。



にも関わらず、私たちはいまなお、いくらかの知識を、そして知りたいという気持ちを持っています。ひとは自分の無知と無力に苦しんでもなお、だからこそ知ることを、学ぶことを辞められないのではないのでしょうか。

社会で出れば、学ぶ機会は今まで以上に少なくなると思います。「知」を学ぶことを生業にしている私ですら、最近はずから学ぶ時間がないことにうんざりし

ています。

それでも、最後には、みずからの意思によって学ぶという希望が残っています。

私がみなさんに送る言葉があるとすれば、それは、これからも「学び」を続けてほしいということです。牛の歩みでかまいません。

あなたが学ぶことをあきらめないかぎり、「知」はみなさんを見放しません。そして、「知」は、確かに、あなたの生活と心を豊かにするはずです。少なくとも私はそう信じています。

自戒を込めて、送る言葉としたいと思います。

これからもお身体に気を付けてお過ごしください。

あらためて、本日はご卒業、おめでとうございます。

宮内 肇

(このメッセージは、読書猿「独学という希望」『文藝春秋』2021年4月号〔電子版〕に影響を受けてしたためました。)